

診療情報および検体（試料）を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録や検体（試料）をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報・検体（試料）も、貴重な情報・試料として、研究対象として扱わせていただきます。この案内をお読みになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分やご家族等の診療情報・検体（試料）を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 2010年1月1日 ～ 2021年12月31日の間に、胃癌のために虎の門病院消化器内科に入院・通院し、内視鏡治療を受けられた20歳以上の方です。

【研究課題名】

胃底腺型胃癌の予後に関する検討

【研究の目的・背景】

《目的》

胃底腺型胃癌の予後や同時・異時多発を通常の胃癌と比較することで、今後の胃底腺型胃癌の診療に寄与することを目的とします。

《研究に至る背景》

胃底腺型胃癌は2010年に報告された新しい概念の胃癌です。胃底腺型胃癌は *Helicobacter Pylori*(H.P)陰性胃癌の1つであり、H.P除菌療法が普及したため、今後の胃癌に占める割合が高くなると予想され、注目されています。しかし、胃底腺型胃癌の予後良好と報告されていますが、他の胃癌と比較して予後が良いかはわかっていません。そこで、今後重要になる胃底腺型胃癌の予後や同時・異時多発を調査することで、今後の胃底腺型胃癌の治療やサーベイランスの必要性などに寄与できると考えられます。

【研究のために診療情報・検体（試料）を解析研究する期間】

2022年10月27日 ～ 2024年12月23日

【単独／共同研究の別】

単独研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は 虎の門病院 部長 布袋屋 修のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報・検体（試料）を虎の門病院外へ提供する場合】

診療情報・検体（試料）は、虎の門病院外に提供することはありません。

【利用する診療情報・検体（試料）】

診療情報： 年齢、性別、身長、体重、飲酒歴、喫煙歴、PS、既往歴、内服歴、内視鏡所見、病理所見、免疫染色所見

検体（試料）： 病理組織

【虎の門病院における研究責任者】

虎の門病院 布袋屋 修

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報・検体（試料）の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報・検体（試料）が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2023年4月30日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様が不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 ・ 早坂 淳之介

電話 03-3588-1111(代表)